

市議会だより

No.66



2022年4月1日発行
発行 仙北市議会
編集 仙北市議会・
広報編集 特別委員会



2月定例会、議員賛否
予算常任委員会
一般質問
総務文教常任委員会

P2～3
P4
P5～12
P13

市民福祉常任委員会
産業建設常任委員会
広報編集特別委員会・
控室・人事案件
編集後記

P14
P15
P16

■ 静かに春を待つ武家屋敷(青柳家)



— 2月定例会 —

第2回定例会は2月15日～3月11日まで開催され、令和4年度一般会計当初予算や追加議案を含む46件の議案が審議されました。また、最終日にロシアのウクライナ侵攻を非難する決議案を全会一致で可決しました。

令和4年度 一般会計予算の概要

収 入

市税収入は、固定資産税のコロナ禍による昨年度の特例措置の終了と、昨年度の個人市民税が想定より落ち込まなかったことが反映されて、昨年度比3.8%プラスの、25億7,602万円が計上された。また、地方交付税は、地方財政計画などを踏まえ、総額で1億2,300万円増の85億8,300万円を見込み、好調が続いているふるさと納税寄付金は、前年度同額の12億円を見込んでいる。しかし、臨時財政対策債が大きく減収となる見込みであり、財政調整基金繰入金を除く歳入総額が昨年度比で3億7,800万円の減収を見込んでいる。この不足分を財政調整基金の取り崩しで補い、一般会計総額は204億1,900万円（前年度比3,100万円 △0.2%）となった。

支 出

退職手当負担金の減少や、角館こども園の民営化による職員数の減少により、人件費は昨年度比で1億8,045万円減（△4.8%）の、35億8,290万円を見込んでいる。普通建設事業費は、建設事業の抑制などにより、昨年度比で11.3%減の13億2,659万円を計上している。また、第三セクターの統合に向けて、三セク4社の借入金を市が肩代わりするための貸付金や、介護保険、後期高齢者医療特別会計等への繰出金などの増加要因のほか、3回目のワクチン接種などの新型コロナ対策や、市民の健康と生命と生活を守るための事業予算、産業振興や教育文化にかかる新規事業などが盛り込まれている。全体としては、昨年度に約6億円支出された除雪費が、当初予算では、約2,200万円しか計上されていないことや、市の貯金である財政調整基金が約5億7,000万円しか残っていないことなどから、新型コロナ等による状況の急変や非常事態発生などの不測の事態への対応などを考慮すると、非常に厳しい財政状況である。

新型コロナ積極対応を

令和4年度予算総額 370億618万円を可決

一般会計予算204億1,900万円 特別会計・企業会計165億8,718万円

令和4年度 特別会計・企業会計予算（単位：千円）

集中管理特別会計	……3,987,979	介護保険特別会計	……458,319	病院事業会計	……5,497,994
国民健康保険特別会計	…2,841,577	生保内財産区特別会計	……85,000	温泉事業会計	……95,669
同 神代診療施設勘定	……95,309	田沢財産区特別会計	……58,000	水道事業会計	……1,536,405
後期高齢者医療特別会計	……368,398	雲沢財産区特別会計	……6,207	下水道事業会計	……1,556,319

ロシア非難決議を可決

議員提出議案として、全議員の連名でロシアのウクライナ侵攻を非難する決議案を提出し、可決しました。

仙北市議会議員選挙における選挙運動の一部自粛の申し合わせ事項

コロナ感染拡大防止のため、市民との接触（握手）を避け、大人数での集会、飲食を慎み、街頭演説等への動員は行わない。選挙運動の連呼や街頭演説は9:00から18:00とする。遊説は選挙カー、随行車1台までとする。

議決結果/議員賛否 令和4年 第2回 仙北市議会 定例会(招集日:2/15 最終日:3/11)

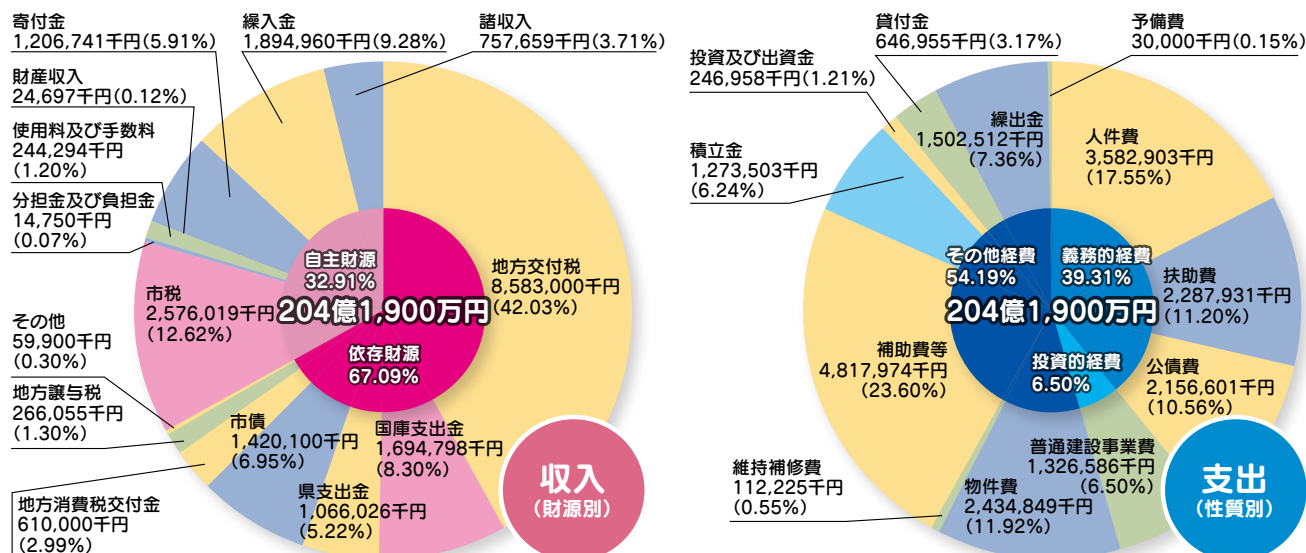
凡例：賛→賛成、反→反対 退→退席 欠→欠席（議長は法律で定めるケース以外では表決をしないことになっています）

議案番号	会派及び氏名 件 名	議決月日	議決結果	蒼生会							く市 う民				共産党	公明党	無党派
				小林幸悦	真崎寿浩	高橋輝彦	武藤義彦	八柳良太郎	青柳宗五郎	門脇晃幸	稲田修	伊藤邦彦	阿部則比古	荒木田俊一			
議案第 13 号	令和4年度仙北市一般会計予算	3/11	可決	賛	賛	賛	賛	賛	欠	欠	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛
議案第 16 号	令和4年度仙北市後期高齢者医療特別会計予算	3/11	可決	賛	賛	賛	賛	賛	欠	欠	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛

※全会一致で可決された議案については議員賛否を掲載しておりません。

令和4年度 一般会計予算の内訳

令和4年度一般会計予算は、昨年11月には収束するかに見えた新型コロナが、令和4年になって再び猛威を振るい、市民生活や市内経済活動に多大なる影響を及ぼしている状況のなか、前年度比3,100万円減（-0.2%）の204億1,900万円が計上されました。コロナ禍により、市税収入をはじめとした自主財源及び、国県の補助金等の歳入確保がまだまだ不透明であり、市財政も非常に厳しい状況となっております。しかし、こうした中にあっても、市民生活を守るため、コロナ禍における感染防止対策や3回目以降のワクチン接種事業の迅速な実施、また、落ち込みの激しい市内経済への対策やポストコロナ時代への対応など、終息後も見据えた施策を打ち出していくなどの積極的な取り組みが求められます。



令和4年度 一般会計当初予算の主な事業

新型コロナウイルス感染症が、今なお猛威を振るう中、令和4年度の主な事業として、生活支援では、子どもの医療費の無償化を高校生まで拡充するとともに、最大1,000円の窓口負担も廃止する予算を計上した。市民の安全・安心確保の取り組みとして、新型コロナのワクチン接種関係経費や内陸線の中村踏切への遮断機・警報器設置の補助金を計上している。また、7月を目途にした第三セクターの統合に向けて、三セク4社の借金を肩代わりする予算として、2億7,325万円が計上されている。昨年度は、一般会計から、特別会計事業及び企業会計事業に24億6,528万円を繰出していたが、病院事業への減額などから、今年度は23億7,768万円の繰出し金と補助金を計上した。特別会計事業及び企業会計事業の更なる経営改善を期待したい。

令和4年度 一般会計当初予算の主な事業

(千円)

公共施設マネジメント事業費	154,364	田沢湖庁舎の冷暖房エアコン設置、各階に非常用電源整備、洋式シャワートイレ設置
政策支援アドバイザーの委嘱	3,436	田口市長の政策全般について、立案&実施支援を行う政策支援アドバイザーを委嘱
三セク借入金返済の貸付金	237,255	第三セクター4社の統合前にそれぞれの借金を返済するために市が貸付する
中村踏切遮断機・警報器設置補助金	11,370	平成に2件の死亡事故があり、令和3年4月に車の衝突事故が発生した踏切
高校生までの医療費の無償化等	17,070	高校生までの医療費を無料にする。最大1,000円の窓口負担も無料にする
若者マイホーム取得助成金	11,000	45歳以下の夫婦に仙北市内に定住するための住宅取得を助成する経費
有害鳥獣駆除事業費	5,810	最近増えているコウゾリカとイノシシ捕獲の報奨金交付で増額した
商工業者等販売促進支援事業費補助金	3,750	ネットショップ等でサイトの改修や商材の写真撮影などに係る経費の助成
田沢湖・角館観光協会補助金	26,780	田沢湖・角館観光協会への仙北市からの補助金
仙北市商工会補助金	9,900	仙北市商工会への仙北市からの補助金
冬期交通対策費	22,263	冬期の除雪費※令和3年度は約6億円の支出になっている(2,200万円では足りない)
火よけ地復元調査費	1,860	旧角館庁舎跡地の発掘調査を実施し復元方法を検討する
特別会計及び企業会計への補助金等	2,377,675	病院事業へ9億2,649万円、下水道事業へ7億円、水道事業へ1億9,045万円など
〔第1号補正〕飲食店緊急支援金	15,368	売り上げが20%以上減少している飲食業者に10万円を支給する
一般会計市債（借金）残高	228億2,366万円	令和3年度末は235億872万円だったので6億8,506万円減少
財政調整基金（貯金）残高	5億7,326万円	令和3年度末は9億5,317万円。平成28年度末は27億円ありました

大雪!除排雪費の2回目追加補正(1億2,000万円)可決される!!

令和3年度一般会計補正予算(第11号・第12号・第13号)の主な事業

冬期交通対策費(道路除雪等)	1億2,000万円	当初2,666万円+8月補正4億3,178万円+今回=合計:5億7,844万円
若者マイホーム取得助成金	200万円	45歳以下の夫婦のマイホーム取得の増加(当初予算は1,200万円)
生活バス路線対策費	530万円	田沢湖駅発着八幡平線の羽後交通への補助及び市民バス、デマンドタクシーの補助増額
高齢者世帯等除雪支援事業費	433万円	75歳以上の世帯に対する除排雪や雪下ろし費用の助成を増額
保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業費	148万円	私立認定こども園と家庭的保育施設に対する処遇改善を図るための所要経費(国が教育・保育の現場で働く人の収入を3%程度引き上げるための費用を補助するもの)
新型コロナワクチン接種体制確保事業費	320万円	3回目のワクチン接種会場の光熱水費及び暖房費
病院事業会計補助金	1億4,164万円	病院事業会計への補助金の増額(当初予算で10億9,718万円を補助)
仙北市経営維持支援金給付事業費	△4,490万円	前年又は前々年から収入が20%以上減少した事業者に10万円給付する事業だったが、申請件数が見込みの56%に留まったことによる減額
コロナ禍でのまつり・イベントの中止	△1,181万円	角館桜まつり△300万円、角館のおまつり△612万円、紙風船上げ△269万円
ふるさと仙北応援基金積立金	△3億円	12月補正でふるさと納税の寄付金を3億円増額したが12月以降不振で減額

本会議・予算常任委員会での主な質疑

第三セクター4社の指定管理者の指定期間等について

質問 第三セクター4社の指定管理者の指定が3月31日で満了になる。今年7月の合併を目指しているのに、4社とも新たに今年の4月1日から令和9年3月31日までの5年間を指定するのはなぜか。また、合併して新会社設立後も指定管理料は5年間変更しないのか。

答弁 現時点では、4つの施設ごとに指定管理制度に則って5年間の契約とした。来年度に統合新会社になった場合は、指定管理の相手方が1社となり、指定管理者の変更が必要となる。各施設の運営等に見直しがあれば、指定管理料も変更することになるが、現行の指定管理料を上回ることはないと考えている。

質問 「3年後には黒字にして、指定管理料をゼロにします。」といった、民間経営者を募るような施策は考えていないのか伺う。

答弁 民間の経営者も視野に入れ模索している最中である。

第三セクター4社は合併して黒字経営になるのか

質問 令和4年度一般会計予算に、三セク4社の借金を市が肩代わりする経費(2億7,326万円)が計上されているが、4社が合併した新会社は、市へ返済しながら黒字経営ができるのか見解を伺う。

答弁 新会社は、重複している事業の見直しや赤字部門の休止・撤退などでの経営改善を目指す。市の貸付金の償還については、3年の据え置き期間が必要と考えている。貸付金を償還できる黒字経営を目指す。

令和4年度の除雪費を確保できるのか

質問 令和4年度一般会計予算に、除雪費が2,226万円しか計上されていないが、今年度は2回の補正で5億8,000万円程の除雪費が必要となっている。予算編成時の財政調整基金は5億7,000万円程度しか残っていない財政状況で、来年度の除雪費を確保できるのか。

答弁 仙北市の合併以降は、除雪費の当初予算を必要最小限で計上し、普通交付税や前年度繰越金が確定した後の、9月補正で追加計上してきた。来年度も9月補正で除雪費を確保する。

新たな公共交通について

質問 新たな公共交通の形「よぶのる角館」という事業の内容について伺う。

答弁 実施主体は仙北市とJR東日本で、運行は羽後交通と角館観光タクシーに委託する。角館中心部と花葉館や抱返り溪谷などの観光スポットを対象に運行する。スマホと電話での予約ができ、5/17から利用できる。

保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業費について

質問 具体的な事業内容について伺う。

答弁 国の経済対策事業として、保育士と幼稚園教諭等の処遇改善臨時特例事業である。第12号での補正は、はなさき仙北と保育室ねむねむのきの職員の給与月額3%を2月から引き上げる予算である。

過疎地域の持続的発展には、 移住定住対策事業が必要だ

蒼生会 門脇 晃 議員



市長 子育て世代へのしっかりした支援を行う

令和4年度当初予算は、財政圧縮できたか

質問 令和4年度は、14億円財源不足が生じるので、4億円圧縮したいと一般質問で答えていたが、予算内容を見ると圧縮されていない。理由は何か。

答弁 既存事業、公営企業等への繰出し削減、ふるさと仙北応援基金等の繰り入れで解消する用途を立てていたが、単独補助金や公用車リース料などの事業に大きくメスを入れることが出来なかった。燃料費、光熱水費の高騰、委託事業増などによる物件費増と国庫補助金、地方債などの特定財源の減により、物件費に係る一般財源が増となった。

有効な施策実行のための財源確保は

質問 具体的な財源確保の考えを伺う。

答弁 歳入では、国や県補助金の活用、補助メニューに沿うような事業をしていく。現状では、ふるさと納税寄付金が非常に有効な財源である。歳出では、一般財源で実施する単独事業にメスを入れる必

要がある。人件費の削減、投資的経費の事業量、執行ベース抑制により、市債発行額が公債発行償還元金額を上回らないようにする。

過疎地域持続的発展計画の移住定住対策

質問 過疎地域の持続的発展には移住定住対策が必要だ。所見を伺う。

答弁 急激な人口減少と少子高齢化による生産年齢人口の減少から、基幹産業の労働力が不足している。雇用機会が減少し、若者の市外流出が進み、更なる少子高齢化につながる悪循環が続いている。移住定住対策は、その流れに歯止めをかけるための重要な施策と考えている。具体策として、子育て支援、女性の活躍の場の提供、他地域からの移住に対する寛容性など、意識の醸成を図る必要がある。

質問 令和2年、令和3年度の移住定住対策執行額はいくらか。また、成果について伺う。

答弁 令和2年度は、人件費を除き2,688万3,642円で、定住促進奨励金が11件、新婚世帯家賃助成事



■間もなく完成。夢いっぱいのマイホーム

業費補助金が57件、次世代定住支援事業補助金が23件うち4件が市外からの移住になっている。令和3年度は、途中ではあるが人件費を除いて1,450万9,828円で、定住促進奨励金が8件、新婚生活支援事業補助金が4件、若者マイホーム取得助成金が18件となっている。

質問 人口減少に歯止めをかけるために、年間どれくらいの財源が必要と考えているか。

答弁 自問自答している状態だ。一時的な補助金の交付だ

けでなく、暮らし易いまちづくりから市民の幸福度向上につなげる必要があると考える。限られた財源の中で、社会ニーズに合わせ、最小の経費で最大の効果を上げるように努める。

質問 市が認識している山間農業地域の集落数を伺う。

答弁 林野率80%以上かつ耕地率10%未満の山間農業地域は、旧白岩村19集落、旧田沢村11集落、旧松木内村33集落、合わせて63集落である。

(平岡裕子記)

地域住民が心を一つに、しっかりと
満足感が得られる地域と観光づくりを

蒼生会 眞崎 寿浩 議員

市長

観光資源豊富な仙北市の付加価値を高め、
市民の幸せに繋がる観光地づくりを目指す

仙北市の観光について

質問 令和4年度施政方針で、「新しい観光振興計画の策定に取り組む」とあるが、

アフターコロナを見据えての仙北市観光は「五感」全てを刺激させる充実した形で、地域の魅力をさらにアピールする必要がありと考えるが、見解を伺う。

答弁 仙北市総合計画や、仙北市総合戦略では、質の高い観光地形成を目指して、旅行者の満足度向上を図るとしている。更に、アフターコロナを見据えた新しい観点での観光振興計画の策定により、旅行者の「五感」を刺激するような、新しい旅の形を生み出したいと思っている。それによって地域経済が潤い、地域を誇りに思えることが、市民の幸せに繋がるものと期待し、観光振興に取り組みたい。

質問 地域住民に対してはもちろん



■市民の幸福度向上に繋げたい仙北市の豊富な観光資源

だが、初めて通る通行者（車）に対して優しく安全な道路なのか、案内看板等の設置状況と合わせて、現状に対する認識と考えを伺う。

答弁 仙北市には3本の国道に加え、県道や市道が数多くあり、主要な交差点や大きな道路などには大型の観光看板などを設置し、市内の観光地へ誘導・案内をしているが、デザインや表記方法が統一されていないため、観光客や市民にとって分かりやすい案内ばかり

ではないと感じる。カーナビやスマホの普及、ICTの更なる進化による道案内の変化に対応した看板など、在り方を検討していく必要があると考える。

また、道路整備については、計画に基づいて順次進めており、関係する国や県とも連携しながら、利用者にやさしく安全な道路の整備を目指していく。

質問 観光施設等の食材調達に関し、地元との結びつきをさらに強め、仙北市産の米を主軸とした食材の更なる消費拡大を目指してはどうか、見解を伺う。

答弁 観光施設は、お客の増減や天候不順による不作などの影響を受けても、調達量をコントロールすることも必要である。また、コスト管理などから、地元産だけではない業者との取引があることも実情である。ただ、観光施設の経営にはコスト意識も大事だが、付加価値をつけ、地域の魅力をより高く評価していた

だき、経済に結び付けることも重要であることから、現状の市内宿泊施設等での地産地消費を把握し、それを踏まえて、供給者と需要者のコミュニ

ニケーションの場を設け、地産地消費の向上を目指したい。

今後の秋田内陸縦貫鉄道をどうしていくのか

質問 内陸縦貫鉄道は地元密着と観光を併せた形での運営形態であるが、現状は厳しい状況にある。内陸線を持続していくために、観光に特化した線路と道路の両方を走るDMVやSLの運行についての見解を伺う。

答弁 内陸線を存続させるためには、新しい価値観が必要であり、仙北市での付加価値も考えていく必要がある。また、DMVやSLに関して、いずれも導入までの莫大な財源や設備面での障害が多々あり、過去に検討したが断念した。現在お座敷列車の全面リニューアルにあたり、観光に特化した誘客は、内陸線存続のキーポイントになると考えており、観光資源としてどのように展開するか、アイディアを共有していく。

（澤田雅亮記）

用語解説

DMV（デュアル・モード・ビークル）
…線路と道路の両方を走行できるマイクロバスを改良した鉄道車両

道の駅構想の動きが見えていない

市民クラブ 伊藤 邦彦 議員



市長

課題も多いが可能性を模索する

道の駅構想について

質問 市民から出された道の駅開設の請願書を議会では全会一致で採択としたが、その動きが全く見えてこないが。

答弁 道の駅それに付帯する農産物直売施設は、観光振興や交流人口の増加等、経済好循環の可能性はあるが、現実には多くの道の駅と設置者である自治体は、赤字経営に苦しんでいると伺う。設置に向けては様々な課題があり、年間を通して提供できる野菜や加工品等の品ぞろえ、設置場所、運営者が誰なのか等である。道の駅設置が、市の新たな財政負担となることは避けなければならないが、今後可能性を模索していく。

質問 赤字の施設や財政的なこともあるが、市民所得の低い仙北市においては、出品者及び、そこに勤める従業員の所得向上にも繋がると思う

がどうか。

答弁 最近の道の駅といえば、農産物の直売所という位置付けが多い。地元の農家さんからの協力を得て、常に農作物を販売できる環境を整えられるか、態勢構築ができるのか、地元農家とコミュニケーションをとりながら、可能性を模索する。

落合球場の改修について

質問 生保内公園野球場の改



■動きが見えない道の駅構想

修が終われば取りかかるとの当局の答弁であった。あれから8年経ったが、飲料水の改善だけで他は何も変わっていない。財政が逼迫しているから無理という事か。

答弁 現在の市財政の逼迫状況から、事業実施は困難と考えるが、改修に使用可能な補助金や助成金、クラウドファンディング、球場の命名権スポンサー等、引き続き財源確保のため様々な可能性を検討する。

質問 今後、改修に協力するという事業者も出てくるかもしれない。そうしたことも踏まえ財源を見つけ出す検討をしようか。

答弁 財源がある程度確保できれば、実現の可能性が出てくる。市議会議員の皆様も積極的に動いていただき、国政の先生方からも様々な情報をいただいている。球場の改修に使える財源がどの程度確保できるのか、しっかりと検討したい。

田沢湖・角館観光協会について

質問 仙北市は旧3町村が対等、共存共栄の合併理念のも

とに、合併が成立した。仙北市はひとつを目指し、それぞれの団体が協議を重ね今に至っている。しかし、観光協会だけは、田沢湖・角館観光協会と称しており、市民の税金を補助金として、多額に助成を受けている団体でもある。幸福度日本一を目指すとする市長の理念、また、市民の融和と協調を計る上で、他団体同様に、仙北市を「冠」とし、仙北市観光協会とするべき指導、助言を願いたい。

答弁 何故「仙北市」を冠としないのかとのことだが、組織の名称については当時の各団体の方々が議論されていることから、それを尊重すべきものと考えている。決定に当たっては、「田沢湖・角館」の名称が、他の観光地に対抗できるブランド力があるとのこと、決定した経緯があると聞いている。いずれにしても名称変更といったご意見があるとすれば、観光協会内で議論されるべきものと考えている。

(武藤義彦記)

角館総合病院での オンライン面会サービスの早期開設を！

公明党 熊谷一夫 議員

市長 令和3年度中に実施したい

新型コロナウイルスから市民の命と健康を守る取り組みを

質問 3回目接種のワクチン供給状況及び接種体制と今後の予定について伺う。

答弁 仙北市の3回目ワクチン接種の対象者は2万817人でファイザー製とモデルナ製のワクチンを確保可能である。一般市民は集団接種で行い、65歳以上は4月中に終了し、6月中には全市民が終了する予定である。

質問 仙北市内のコロナ感染者は何か。また、発熱外来診療による通常診療への影響はないのか。

答弁 県の保健所から仙北市の感染者数の個別情報はない。角館総合病院は、コロナ感染者が入院した場合は、看護師が不足するため、一般病棟の入院が一部制限される。田沢湖病院は、通常診療への影響はない。

質問 仙北市のPCR検査体制について伺う。

答弁 角館総合病院は、行政検査の検体採取を行っている。田沢湖病院は、外部に検査を委託している。両病院とも、発熱外来では、短時間で

判定できる抗原検査を行っている。

質問 仙北市での5歳から11歳のワクチン接種の対応はどうするのか。

答弁 保護者に対し、メリット、デメリットをしつかりお伝えするとともに、相談窓口を設置して対応したい。

質問 新型コロナウイルス治療の高額な飲み薬について、公明党が提言する、国が一定量を買って、国民に安価で提供することについての市の見解を伺う。

答弁 新型コロナウイルス感染症は、指定感染症であり、現在のところ自己負担はない。国での薬価の取り扱いを静観したい。

角館総合病院での「オンライン面会サービス」開設について

質問 コロナ禍で、入院中の患者が家族と面会できない病院が殆どであるが、能代厚生医療センターでの、無料通話アプリLINEを使っている、家族との面会が非常に好評だった。角館総合病院への早期開設を提案する。

答弁 角館総合病院も面会は原則禁止である。

しかし、新型コロナウイルス感染の収束が見通せない状況にあり、ウィズコロナに対応したサービスも必要であると考え、今年度中にWi-Fi環境を整備し、オンライン面会サービスを実施したい。

デジタル社会を目指して

質問 コロナ禍で見えたものの一つに日本のデジタル化の遅れがある。課題である高齢者へのデジタル化支援とデジタル機器の使い方支援等について推進するべきではないか。

答弁 昨年12月の高齢者向けスマホ講座に26人の参加があった。高齢者のスマホ活用の裾野を広げることが、地域のデジタル化の推進に繋がるため、今後も地域運営体などと連携したスマホ講座を開催し、気軽にスマホを使いこなせる高齢者を増やしていきたい。



■寝たきり患者用のオンライン面会用のタブレット

質問 デジタル化を加速するには、マイナンバーカードの活用が必須であるが、仙北市のマイナンバーカードの取得率の現状と今後の取得率向上の取り組みについて伺う。

答弁 マイナンバーカード使用によるコンビニでの住民票等の発行や、市民係での月2回の19時までの予約交付などにより、令和4年1月末で32・3%の取得率である。今後も様々な団体から、未取得者に申込書が送付されるので、取得窓口の混雑時は、交付専任の職員を配置し、取得率向上に取り組むたい。

(青柳宗五郎記)

子育て世代のニーズが高い 病児病後児保育の実現を

澤田 雅 亮 議員



市長 体調不良児対応型の早期実現に向けて取り組む

私の独自アンケート調査による子育て世代の女性支援について

質問 子育て世代の働く女性にとって、子どもの病気は最大の難関であり、調査した70%の女性が病児病後児保育の必要性を訴えている。市として、実現する覚悟はあるのか。また、連携が必要な角館総合病院の小児科医の常駐は進んでいるのか伺う。

答弁 角館こども園の医務室に専門職員を配置して対応する。体調不良児対応型の早期実現に向けて、はなさき仙北と協議を進める。小児科医は、昨年10月1日から週4日で1名の医師が常駐している。

質問 子育て世代の女性の約87%が、やりたいことにチャレンジできていない。市として、女性がチャレンジしやすい環境の整備や、より良い男女共同参画について、どのように取り組んでいくのか伺う。

答弁 子育て世代のご意見をいただき、子育て支援施設や子育て経済支援をさらに充実させ、子育てと就労の両立による、チャレンジしやすい環

境づくりを目指して、令和4年度を初年度とする「第4次男女共同参画計画」の策定に取り組んでいる。

質問 子どもと遊びに行く場所は87%が市外であり、仙北市に子育てに関する施設が欲しいとの声が90%以上もある。現在、落合野球場の整備を検討しているが、野球場周辺を総合的に整備し、市民の憩いの場所となるような抜本的な街づくりの再編が必要と考えるがどうか。

答弁 落合野球場周辺は余剰の土地がない。遊具担当部署検討会は、遊具のある21箇所の公園のうち、生保内公園、角館駅東公園、湯前山公園の遊具を整備することとした。市民が足を運びたくなる公園にしたい。

これから仙北市における公共交通の在り方について

質問 先日、市が主催の地域公共交通に関する座談会に参



令和3年度に生保内公園に整備された複合遊具

加した。地域にNPO法人を立ち上げて、自家用有償旅客運送を紹介していたが、将来的な自動運転やデジタル化の進化を考えると市が主体の運営が望ましいのではないかと。

答弁 予約型自家用旅客運送をNPO団体で運行する機運のある田沢地区を紹介したものであるが、市としても、ダイヤ設定や新たなデジタル技術の導入等に関しては協議の

うえ実証していきたい。自動運転については、技術の確立に時間がかかる状態だが、実用化に向け今後も検討したい。

仙北市は、頑張る人が報われる職場環境にあるか

質問 人事院発表の、令和2年度の公務員の意識調査結果をみると、人員配置、評価制度、異動、報酬・処遇に対して不満を抱いており、業務に対するモチベーション等の低下が指摘されている。仙北市における人事評価制度や今後の組織づくりについて伺う。

答弁 職員の適正な人事評価と人材育成に向けて、人事改革を断行する。令和4年度に、人事システムと職員育成及び登用システムのバージョンアップに取り組むとともに、登用、管理すべてにおいて、あるべき体制づくりを現場の職員と対話しながら進め、職員の仕事に対するモチベーション向上にも繋げていく。

(高橋輝彦記)

幸福度全国ナンバーワンの 仙北市をつくる基本的な考えを問う

市民クラブ 稲田

修 議員

市長

幸福度は性別や年代によっても各々違いがあり、満足度とも違い、常に自分の心が決めるものと思っている



■子ども・母親が安心して暮らせる幸福度の高いまちづくりを目指す



■花も片付けていただくことを周知する柏山墓地公園

幸福度をあげる方策は何か

質問 田口市長の選挙公約や発信している情報を見ると6項目の施政方針や多くの課題を取り上げているが、幸福度をあげる為に何が足りないと感じているか。

答弁 他人と比較し、良い車に乗っているとか、収入が多いとかは満足度であり、私が言っている幸福度は自分たちがここで生まれ育って、家族

や大切な人たちと生活していくこと、恵まれた自然、温泉、山菜や美味しい米があることが当たり前ではなく、本当は恵まれているということをも一度考えていただきたい。だからこそこの幸福度を追求して行きたい。幸福度が高い地域からは人は去っていかないと考えている。

質問 市長の答弁は答弁書を読んでいる、本当の気持ちが含まれているのか、こちらに響かない。

答弁 内容等、十分担当と打ち合わせの上で答弁している。どういう思いで答弁しているのか伝わっていないのであれば非常に残念である。

100年続く仙北市をめざす。市民の皆さんに希望を持っていただかなければ流出は止まらない。内容はしっかり吟味して、自分も納得し答弁している。市民が何に不満を抱き、何に幸福度を感じているのか、しっかり市民の意識調査を継続させ、市政を進

めていく。

シルバーセンターへの業務委託内容と実施状況は。

質問 シルバー人材センターへ委託している墓地公園で管理が十分になされているのか。この頃お墓に供えられた花の散乱が見受けられるが。

答弁 お墓に供えられたものまでの清掃、片づけまでは契約の業務には含まれていない。これまで担当者の善意で行われたこともあったが、他人の物を破損させる等の恐れがあり公園の管理であり、お供え物等の片づけはその方が責任を持って片づけることを周知していきたい。

質問 監査委員の意見に、前例踏襲、担当職員の認知不足、チェック体制に不十分等の意見があった。マンネリ化を招いてはいないか。

答弁 職員のマンネリ化という話であるが、就任して4ヵ月で市の状況を確認しているところである。もし、そのような状況が見られたら、直接私に教えていただきたい。

(荒木田 俊一 記)

分庁舎方式を今後も続けていくのか

蒼生会 青柳 宗五郎 議員

市長

このまま市政を運営せざるを得ない状況である

庁舎方式を今後も続けていくのか

質問 合併時の統合庁舎問題については、議会としても特別委員会を作り、いろいろ議論し、市民の皆様のご考えも重々承知している。市長の約束である「幸福度ナンバーワン」にする為には、いかにして経費を節約し、お金を生み出すか。この事が一番大切と考えている。そこで、分庁舎方式を今後も続けていくのか伺う。

答弁 分庁舎方式は非効率と感じているが、ここに行きついた過程も聞いている。分庁舎方式がいいとは考えていないが、現状ではこのまま市政を運営せざるを得ない状況である。

質問 各庁舎の建築年数について伺う。

答弁 田沢湖庁舎は、昭和47年度建築、経過年数は昨年度末で49年となる。田沢湖第二庁舎は、昭和53年建築、43年経過。角館庁舎は、令和2年建築、1年経過。旧中町庁舎

は、昭和46年建築、50年経過で昨年度用途廃止。旧西勝楽庁舎は、今年度解体した。西木庁舎・第二庁舎ともに、昭和50年建築、46年経過している。

質問 庁舎維持管理費はいくらか。

答弁 全庁舎合計、令和3年度予算現計額で、6,348万5,000円である。令和2年決算額が、5,308万6,000円である。西木庁舎改修工事費1億4,595万1,000円は除い

ている。

質問 3庁舎の維持管理費の詳細を伺いたい。

答弁 (財政課長) 令和3年度の予算ベースで、田沢湖庁舎、約2,100万円。角館庁舎、約3,100万円。西木庁舎が第二庁舎と合わせて、1,200万円弱位である。内訳は、燃料費・光熱費等の需用費、火災保険料等の役務費、保守点検等の委託料。下水道使用料等と備品購入費や原材料費などである。

(熊谷 一夫 記)



■まだまだ分庁舎方式が続く3庁舎

地域の歴史を後世に、肌で感じる傳承を！

蒼生会 八柳良太郎 議員

教育長

関係団体と協議し、しっかり取り組む

質問 「岩瀬川原古戦場跡」の歴史を市民に傳承するとともに、次世代の子どもたちへの学習にも生かし、また、武家屋敷を訪れた観光客へのPRもしていくべきと考えるがどうか。

答弁 明治という新しい時代の夜明けに戊辰戦争という大きな戦乱があり、政府軍についた秋田藩は、東北諸藩に四方から攻められ、西南諸藩（大村藩、平戸藩）の応援兵と角館兵合せて30名の戦死者を出しながらも、岩瀬川原で攻撃を食い止めた歴史がある。現在の角館の古い町並みは、こうした尊い命と引き換えに守り抜かれ、今日まで保存されてきた。市としては、このような歴史を後世

ふるさとの豊かな自然、歴史的な遺産や偉人、文化財を活かした学習について



■「岩瀬川原戊辰戦争顕彰碑」新政府軍戦死者の墓（岩瀬橋東 400m 土手沿い）

に伝えていくため、関係団体と協議して、過去にも開催した戊辰戦争の企画展などの開催を考えている。戊辰戦争については、中学校の歴史でも扱うことになっている。また、観光で訪れた方々に、より深く時代背景や歴史経過を知っていただくことで、施設や地域との連携が生まれることから、解説員やガイドの育成、DX等を活用したスマホでの情報提供等、受け入れ体制づくりにより、しっかりと取り組む必要がある。

お土産品業界に特化した手厚い支援を

質問 宿泊業や飲食業は国、県の支援が数回実施されているが、お土産物店に特化した支援事業はない。市の支援事業はあったが予算規模が小さい。今年度が一番厳しい状況にある、お土産品業界への手厚い支援を求める。

答弁 市内景気は新型コロナウイルス感染症の再拡大により、観光宿泊、サービス業で動きが一服している。お土産品業界の特化事業は、緊急経済対策であり、本市に人を呼び込むことで、重層的な経済波及効果と物産振興に資することが期待できる事業と認識している。これまで実施してきた、まるごとお土産券やプレミアム商品券などの支援事業を精査し、田沢湖角館観光協会や仙北市商工会、協同組合角館町物産協会等の関係団体と最も効果的な事業の枠組み、ボリューム、時期等について準備、協議を進めていきたい。

質問 樺細工伝承館の物産協会の使用料は、条例で6・18%と定められている。近隣

の準公的施設で、物販だけで使用料を払いながら管理運営している施設は他にはない。これまで、運営が赤字であっても使用料を払い続けているが、昨年度の赤字額は一千万円を突破し、厳しい運営になっていることから、使用料の廃止についての考えをお聞きたい。

答弁 伝承館は市が管理運営している施設であり、物産協会に市有財産を貸し付けていることから、一概に他の施設と比較する事はできない。現在の使用料は、施設使用に伴う光熱水費や暖房の燃料代、清掃代、警備費や消防設備等の維持管理費用の一部を負担頂くものである。協同組合角館町物産協会は営利団体であり、営業収益減収に伴う補填に市の補助金を交付することはできない。他の市内企業と同様に融資等を検討頂きたい。使用料については、維持管理費用の一部負担であり無料とするのは困難である。過去2年間は3%に減額しており、今後も経営状況を鑑み、減免等の支援を検討したい。

（門脇晃幸記）

総務文教常任委員会

令和4年度一般会計予算

第三セクター経営改善支援貸付金に2億7,325万5千円

令和4年度一般会計予算の内、総務部、教育委員会関係予算が審査されました。4社が統合される第三セクターに対して、借入金を市が肩代わりするための経営改善支援貸付金や、田沢湖庁舎の冷暖房設備・防災設備・トイレ改修等の予算が計上されております。

令和4年度一般会計予算（総務常任委員会で審査された項目）

項目	令和3年度予算額	令和2年度予算額	比較	伸び率	備考
議会費	1億5,333万円	1億4,426万円	907万円	6.3%	議会運営に関する予算
総務費	46億3,827万円	44億1,117万円	2億2,710万円	5.1%	人件費など行政運営全般や企画制作費
消防費	8億1,425万円	8億9,778万円	△8,352万円	△9.3%	大曲仙北広域消防や消防団に関する予算
教育費	14億8,212万円	14億7,191万円	1,201万円	0.7%	小中学校や公民館等の予算
公債費	21億5,660万円	20億9,154万円	6,506万円	3.1%	借金の返済

令和4年度 総務部・教育委員会関係の一般会計予算 主な内容

公共施設等マネジメント事業費	1億5,436万円	公共施設等総合管理計画に基づき、田沢湖庁舎冷暖房エアコン設置工事、電源工事、内窓サッシ改修、シャワートイレ設置、非常用電源設備、PCB処理
ふるさと納税ふるさと便事業費	7億6,356万円	ふるさと納税の返礼品に地元特産品を利用したふるさと便を実施し、ふるさと納税の推進と市内産業の活性化を図る
サテライトオフィス誘致促進事業費	2,288万円	首都圏のデジタル企業への誘致活動や、市内移動手段の実証実験等を行う
地域運営体活動推進費交付金	2,268万円	地域運営体活動への交付（前年比△30%）
第三セクター経営改善支援貸付金	2億7,325万円	第三セクター4社の新設合併を前提とした債務整理のため、債務相当額を貸付
秋田内陸縦貫鉄道(株)運営費補助金	7,980万円	秋田県、北秋田市、仙北市が秋田内陸縦貫鉄道(株)を存続させるための補助金
学校適正配置関係事業費	337万円	小中学校の将来の適正配置に向けたアンケート調査、説明会、意見交換会を行う
GIGAスクール構想推進事業費	1,454万円	令和3年度から一人1台の学習用タブレット端末を使用したICT環境整備
中学校部活動指導員配置事業費	225万円	中学校に部活動の指導員を配置し、部活動の充実と教職員の負担軽減を図る

ここが知りたい議論のポイント

令和4年度 一般会計予算の主な質疑

地域運営体の継続は

質問 地域運営体は継続していくのか。

答弁 地域運営体は前門脇市長の肝いりで始めた事業である。田口市長も基本的に継続したいという考えなので、予算を有効に使っていただけるよう努力する。運営体の考え方が反映されない形での予算の使い方や、単純にお金を消化するような使い方は控えてほしいと通知している。

第三セクターは統合により黒字化となるか

質問 早い時期に結論を出すというが、どのような形にしていけるのか想定している考えを伺う。

答弁 現状のままでは何も変わらないので、4社統合に向け、それぞれのプロジェクトチームの上に更に統合を推進するための、統合推進委員会を主力銀行の秋田銀行を含めた形で進め黒字化を目指す。

質問 7月から1社にするというが、その間の3カ月は指定管理料で賄うのか。4月から今まで通りの運営だと当然借金が出てくると思うが、その場合の対処はどうするのか。

答弁 今までの毎月の償還額を市が立て替え予定であるが、市への償還を3年間据え置きして、そういう部分で余剰金が出てくる。負債もあるが手持ち現金もあるので、市が更に貸し付けることのない形で統合に向けた打合せをしている。

秋田内陸線の赤字対策は

質問 内陸線の赤字が2億円を超えるとの報道があったが、4社合意の中では、2億円を超える経営そのものを検討する決まりがあると思うが。

答弁 今年度は2億1,539万円の赤字になるという見込みである。平成22年に交わした4社合意では、当面の間という言葉で2億円を下回ることを目標としているが、今回7年ぶりに2億円を超えるので話し合いをする場が生まれると考えている。



■ 2億円を超える赤字となる秋田内陸線

市民福祉常任委員会

令和4年度 一般会計予算 民生費・衛生費77億4,946万円
新型コロナウイルスワクチン接種関連費用に8,123万9千円

令和４年度一般会計予算の内、民生費・衛生費が審査されました。福祉医療費２億 1,966 万円には、８月から実施予定の高校生までの医療費の無料化・窓口負担なしの予算も盛り込まれています。新型コロナウイルスワクチン接種関連事業に 8,123 万 9,000 円などが計上されています。

令和4年度一般会計予算 （市民福祉常任委員会で審査された項目）

項目		令和４年度予算額	令和３年度予算額	比較	増減比率	備考
民生費	社会福祉費	28億6,677万円	28億 811万円	5,866万円	2.1%	障害者や高齢者の福祉に関する予算
	児童福祉費	17億1,759万円	16億2,128万円	9,631万円	5.9%	認可保育園の運営など児童福祉の予算
	生活保護費	4億9,019万円	5億1,394万円	△2,375万円	△4.6%	生活保護に関わる予算
	国民年金費	822万円	763万円	60万円	7.9%	国民年金に関連する予算
	災害救助費	91万円	97万円	△6万円	△6.2%	災害救援に関する予算
	計	50億8,368万円	49億5,192万円	1億3,176万円	2.7%	
衛生費	保険衛生費	6億8,113万円	6億2,975万円	5,138万円	8.2%	病気予防や医師確保歯科診療所上層整備など
	水道費	1億9,468万円	1億6,728万円	2,740万円	△16.4%	簡易水道、小規模水道等の運営に関する予算
	病院費	9億2,649万円	10億9,718万円	△1億7,069万円	△15.6%	病院事業に対する補助などの予算
	清掃費	8億6,349万円	7億7,868万円	8,481万円	10.9%	ゴミ処理、し尿処理施設などの運営費
	計	26億6,579万円	26億7,290万円	△710万円	△0.3%	

令和4年度 市民福祉部関係の一般会計予算 主な内容

障害者自立支援給付費	5億8,746万円	障害を有する方への障害福祉サービス費
高齢者の保健事業と介護事業の一体的実施事業費	351万円	訪問支援を行いながら、必要な医療・介護サービス費用
社会福祉法人はなさき仙北補助金	3億5,600万円	幼保連携型認定こども園5園を運営する「はなさき仙北」へ補助金
緊急通報装置給付・貸付事業費	215万円	ふれあい安心電話貸付事業（仙北市社会福祉協議会委託）
保育士・幼稚園教諭等処遇等改善臨時特例事業費	685万円	はなさき仙北、保育室ねむねむのきへの経済対策支援
福祉医療	2億1,966万円	18歳までの子どもの医療費や窓口負担の無償化などの費用

障害者自立支援給付の内容は 予算の内容と対象となるのはどのような方か。認知症の方も対象になるのか。

答弁 自立支援給付費は、介護給付、訓練等給付、自立支援医療、補装具の給付費となっている。大きい金額は、介護給付費で障害ヘルパー770万円強、短期入所サービス1,400万円弱、通所して生活介護2億7,000万円弱、長期施設入所9,000万円弱などで主に、通所入所サービスで5億6,000万円弱になっている。身体障害者手帳、精神障害者手帳、療育手帳を持っている方ほかに、障害区分認定（介護保険で例えると、要介護認定）を受けた方が対象となる。認知症の方は対象者とはなっていない。

令和4年度 一般会計予算の主な質疑

ここが知りたい
議論のポイント



■ 4月1日から(福)はなさき仙北が運営する角館こども園

緊急通報装置給付・貸付事業の内容は
質問 内容の詳細と利用者はどれくらいか。

答弁 ふれあい安心電話は、秋田県社会福祉協議会が事業主体で、仙北市社会福祉協議会への委託事業として、市の財源を使って定額で設置し実施している。来年4月から県社会福祉協議会が事業撤退することと、夜間や緊急時対応として協力員1名の確保も難儀することから、民間の警備保障会社を導入することにより、駆けつけが早く、より安心であり消防・警察等との連携も強化される。委託先の仙北市社会福祉協議会はアルソックの導入を考えているようだ。

産業建設常任委員会

令和4年度一般会計予算 農林水産業費 3億5,239万円の減額（前年比△31%）

令和4年度の一般会計予算の内、労働費、農林水産業費、商工費、土木費などの予算が審査されました。特に農林水産業費は前年度対比で、マイナス3億5,239万円（△31%）と減額幅が大きくなっておりませんが、基盤整備関連やメガ団地等の大きな事業が終了したことによるものです。

令和4年度一般会計予算（産業建設常任委員会で審査された項目）

項目	令和3年度予算額	令和2年度予算額	比較	増減比率	備考
労働費	6,364万円	6,293万円	71万円	0.1%	シルバー人材センター補助金など
農林水産業費	7億7,010万円	11億2,249万円	△3億5,239万円	△31%	基盤整備事業等終了に伴う減額
商工費	8億2,161万円	8億2,373万円	△212万円	△0.2%	商工業振興や観光振興の予算
土木費	17億3,961万円	17億6,288万円	△2,327万円	△1.3%	道路改良及び他会計補助金等

令和4年度 観光スポーツ部・農林商工部・建設部関係の一般会計予算 主な内容

農業夢プラン型戦略作物等生産基盤拡大事業費	3,451万円	県事業に市が上乗せして行う事業で主に園芸・畜産等に対する補助
仙北市畑作園芸等振興事業費補助金	280万円	国、県の補助事業に該当しなかった畑作園芸に施設や農機購入補助
農業水利施設小水力発電事業費負担金	46万円	仙北平野土地改良区小水力発電事業費負担分
中小企業活性化支援事業費補助金	800万円	起業や事業拡張に係る施設整備、機械購入費に対する助成
自然ふれあい温泉館維持管理費	3,569万円	令和4年度より市直営の運営になるための維持管理費
道路新設改良費	6億3,610万円	交付金を活用した市道の道路改良事業（観光線等8事業）の実施

ここが知りたい 議論のポイント

令和4年度一般会計予算の主な質疑

シルバー人材センターとの
関わりについて

質問 シルバー人材センターへの補助金（800万円）の用途及び市の関わりや責任の所在について伺う。

答弁 シルバー人材センター補助金は、事業管理経費の一部を補助する支出となる。事業や就労等については、シルバー人材センター事務局で管理している。会員間での仕事の差配やコミュニケーション等については、商工課で受けたものは事務局にその声を届けている。今後、商工課と事務局との関係を密にして、シルバー人材センター運営に尽力していく。

グリーンツーリズムについて
質問 グリーンツーリズム推進事業（127万円）の状況について伺う。

答弁 令和3年度現在、36件の農家民宿の登録があり、9、115人の利用である。このうち外国人の利用は、在日外国人を中心に52人の利用である。新加入の農家民宿は神代地区の1件となっている。今年度

の教育旅行の受け入れ実績として宮城県から35校、北海道から7校、ほか秋田県内から298校、2万3,045人の実績で、これは過去最高となっている。しかし、市内経済への波及効果については今後、検証が必要と捉えている。

河川公園の管理と市営住宅の整備について

質問 河川公園の管理及び市営住宅の利用率と今後の整備方針について伺う。

答弁 河川公園は、西木地区、松木内川、河川公園、大石沢河川公園の2箇所を管理している。市営住宅の利用率は、2月時点で88.3%である。市営住宅は住宅困窮者等へ住宅を提供することを目的としており、現状としては、民間のアパート建設等も進んでいることから、新たな市営住宅の建設計画はない。



市が管理する大石沢河川公園

令和4年度企業会計 当初予算

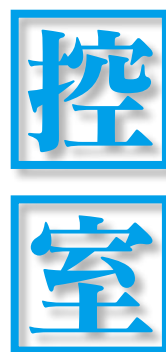
項目	予算額	前年比	備考
温泉事業会計	9,567万円	(△2,423万円)	改良工事費等の減
水道事業会計	15億3,641万円	(+2億9,291万円)	上水道未普及地域解消老朽管更新事業費の増
下水道事業会計	15億5,632万円	(△1億3,816万円)	建設改良費等の減

広報編集特別委員会

2年間の任期満了となり解散します。
ご購読ありがとうございました。

市民の皆さまが、よりわかりやすく読みやすい「市議会だより」を目指して編集委員一同、ああでもない、こうでもない、と、年4回の定例会報告を編集してきました。

このメンバーでの2年間は、コロナ禍により、おでかけ市議会の開催は中止になり、殆どのイベントや行事も中止になり、写真や話題を掲載できず、市民の皆さまには物足りなさがあったかもしれません。4/17 投開票の仙北市議会議員選挙後に新たに編成される広報編集特別委員会に期待していただくことにいたしまして、まずは、発展的に解散させていただきます。ご購読ありがとうございました。



第三セクターの統合

議会広報編集特別委員会副委員長 武藤 義彦

仙北市では、経営状況が悪化している第三セクター4社の統合を発表した。赤字のままで独立した状態では、雇用や資金調達に課題があり経営立て直しは困難であるとして、赤字部門となっている事業の撤退や、サービス内容の変更等により、黒字化に向けた支援を進めるとしている。

経営改善に向け、コンサルに業務委託し、現状分析の結果を踏まえ4社統合による永続的に運営できる仕組み・体制の構築を図るとしている。今後7月を目途に統合とするが、各施設においてはしばらく通常営業を続けるという。4社の借入金は約2億7千万円程であるが、一旦仙北市で肩代わりし、新会社が3年据え置き後に償還を行うとして、新年度予算に第三セクター経営改善支援貸付金を計上している。議会内では、経営の黒字化・円滑な償還等について様々な議論があったが、今後の経営改善の見通しは未知数である。
市としては、債務が膨らむ前のもっと早い段階での行政判断が必要であったと思う。黒字化を進めるためには、大胆な改革が不可欠であるが、施設を長年利用してきた地元の声にも耳を傾けてほしいものである。

人事案件（敬称略）

雲沢財産区管理委員

藤原 房雄（77歳）

仙北市角館町下延竹市野一四一―一
任期 令和四年五月八日～令和八年五月七日

仙北市議会議員一般選挙の日程（定数 16）

※令和4年4月30日任期満了

◇告 示 令和4年4月10日（日）

※4月11日（月）から期日前投票ができます。

◇投開票 令和4年4月17日（日）

※みんなで投票に行きましょう！

※あなたの一票が仙北市を大きく変えるのです。

編集後記

議員の任期（4月30日）が間近かに迫る中、2月定例会の

本会議一般質問には予定通り8人が登壇した。

市長の質疑応答は2回目であり、市民の満足度を高める施策や効果を検証しながら貴重な財源を使うという自身の公約を予見させる落着いた対応であった。

範囲が市の行財政全般の他、地域の住民生活に密着している事項など多岐にわたって質問が許される。一般質問には、補選で当選されたベテラン、新人二議員も登壇し市民の豊かな生活の向上のために、それぞれの議員の持ち味を発揮し熱弁を振るった。

2年前編集委員長を引き受けた際、編集後記に「わかりやすい議会だよりをお届けします」と書いた。議会だよりがこの目標をクリアしたのかどうかはわからないが、編集委員一同にはその目標に向かい努力を頂いたことに感謝を申し上げる。

任期途中で県議選の為、辞職された田口、高橋（豪）委員にも感謝する。又前半2年、後半2年交代の委員を最後まで続けていただいた平岡、熊谷、高橋（輝）、武藤、門脇委員には重ねて感謝申し上げます。平和の祭典、パリンピックの開催中、ロシアのウクライナへの侵略が報じられた。

我国が70余年前に終結した戦争が今、他国で起きている。見ざる、言わざる、聞かざるの状態におかれた我国民は悲惨な結末を迎えた。民主主義の自由は大変な代償を払い手に入れたものである。

今まさに選挙戦が幕をあける。言論の自由は民主主義の根幹である。市民生活向上の為の支持を競うべきである。

ひとつ心残りがある。コロナ感染症の拡大の為、難儀をかけた編集委員に慰労の場を持てなかったことである。

（議会広報編集特別委員会委員長 八柳 良太郎）